

校内 研究

M町立M中学校

なぜ「勉強」から「学び」なのか？

これまで、中学校の指導で重点的に行われてきたのが、生徒指導、進路指導、部活指導です。子ども達を健全に育成するために、これらは大きな効果を発揮してきました。ところが、近年、この3本柱にも限界が見られてきています。多種多様な価値観を背負った家庭から育つ子ども達に対して、規則一編等の生徒指導は難しくなってきました。高校進学意識は高いですが、「高校へ行けなくなるからテスト勉強しろ」は、どの生徒にも通じません。「高校に入れば、どこでも…」「子どもの好きなように…」親自身、子どもに対する期待感がうすくなっています。本校の生徒を觀ても、受験前にもかかわらず学習に時間を割かない生徒がたくさんおりました。家庭学習の時間は、平均30分はいかないでしょう。進路指導で「夢に向かってがんばれ」という動機付けができる生徒が大変少ないのが現状です。部活動もしかり、部活動をがんばっていることが、学習や生活に張りをもたせることとつながりにくくなっています。

これらの中学生を目の前にした今、わたし達は、“勉強させるではなく”本来の“学びの楽しさを味あわせる”を、生徒達に提供していかなくてはならなくなっているのです。勉強から、学びへの変換です。

研究で目指したい、“学び”を中心に据えた授業の姿とは

2年前に本校は、読解力と表現力に視点をあてた研究発表を行いました。その成果としてあげられたのは、以下の3点です。

- ① 生活班やグループでの活動を多く取り入れることで、興味を持って取り組む生徒が増えてきた。また、スモールティチャーの活用により、生徒間のコミュニケーションが活発になり、日常の班の中で教え合う姿も多く見られるようになり、生徒自身が自分の課題をより明確にとられられるようになった。そして、解決しようとする粘り強さが出てきた。
- ② 身近な題材や具体的な資料に基づいた発問をすることで、一問一答でなくなり、生徒の発言が広がってきた。
- ③ 各教科の中で取り組む事を確認して焦点化を図ったり、成果や改善が図れた事を中間総括したりして、方向修正を加えながら研修を進めることができた。

以上のように、研究して見えてきたことは、読解力も表現力も、ことばの力を引き出すことの大切さでありました。そうすると「ことば」や「声」が出る教室・授業を私たちは作っていかなくてはなりません。

M 中の現状から

本校の生徒を觀察してきて、確かに素直で、授業中は比較的落ち着いているように見えます。しかし、内面は決して落ち着いてはいないと感じています。以前受け持ったクラスだけでしたが、アンケートをとると、6割強の生徒が学校生活で嫌なことが、

「授業がつまらないから」と答えました。M 中の生徒全体からはアンケートをとっていませんのでわかりませんが、この授業がつまらないという点が相当大的な問題だと思います。この生徒達がまず最初に、学ぶことから逃避し始めていくのです。

もう一つは、不登校生徒の存在です。この子ども達の原因は、さまざまあるのですが、大きいのは仲間作りの力が足りないことです。人間関係トラブルから発生する問題行動は、現在の生徒指導の全てといっても過言ではないでしょう。

昨年度から始めた新しい校内研究

上記に記したことは、昨年度に研究を始めるときに配布した資料を抜粋したものです。

そのことを踏まえて、授業改革を中心に新たな校内研究を1年間実践してまいりました。途中、新型インフルエンザなどがあり、研究・研修計画を断念せざるを得ないものもありましたが、概ね、計画通り行えました。昨年度から行った校内研究のテーマや研究の柱は次の通りです。

自ら学び、生きる力を身につけようとする生徒の育成
～「かかわり」を大切に、個と個をつなぎあう学習を通して～

研究の3つの柱

- (1) 授業研究会の後の協議会(話し合い)の充実
- (2) 個人研究発表会で同僚性を育む
- (3) 現職教員としての力を蓄える

この3本柱を実践の土台として、研究・研修を行ってきました。それぞれ、柱一つひとつを実践するにあたって、いろいろな工夫を施しました。

次は、1年間校内研究を行った後のアンケートや研究推進委員会で話し合った総括を列記してみます。

- ① 読解力と表現力を高める授業の創造のポイントの評価が低位。
- ② 道徳指導の充実、いのちの教育を育てながらの進路指導の評価が低位。
- ③ 記述回答から
 - どの学年もコミュニケーション能力を育成することへの関心が大きい。
 - △コミュニケーション能力の育成場面を意識的に授業に取り組もうとしているかはまだ不十分。
 - グループ活動ができる生徒が増加している。
 - △思考力、判断力、表現力を高める授業づくりの意識が不十分。
 - 現職研修が有効だった。
 - 校内研究は毎回とても勉強になった。

○夏休みのライフスキルがためになった。

○学年で同一主題で授業を見せ合い、研修しようとした。自主的な授業研究会が開かれてきた。

△学期一回は研究推進委員会を開いて、研究の方向性の確認をする必要があった。

○個人研究会は、初の試みで、当初は研究内容や発表のイメージが湧かなかったが、実際に体験してみて、研究は「苦しいもの」ではなく「楽しむもの」になり来年が楽しみになった。

△指導案の形式は、これまでの本校の積み重ねてきたものを参考にしていきたい。

※『講義形式からの脱却』を掲げて、日常の授業改革を進めていってほしい。

2009年の校内研究を総括すると、概ね、研究の方向性や方法は好評でした。ただ、テーマにある“かかわり”が目的になりがちで、あくまでも手段であるという意識が低かったという議論になりました。また、表現力や読解力の育成が今後とも必要な状況は続きます。特に“聴く力”を付けることが、表現力や読解力育成の大きなカギとなるということ、研究を行う上で確認し合いたいものです。昨年度は2回の授業研究会で、全員が参観するという形をとったため、授業を開いていただいたのは4人の方でした。全員がひとつの授業を参観し、研究協議を行うというのは、それはそれで大変有効であったことはアンケートでもでてきています。しかし、一方で授業を開くことも全員で行うことが大切であるという反省も出されました。両方の兼ね合いをとるのは大変難しいです。そこで、昨年の後半から、各教科や各学年で自主的に開催され始めた、ミニ授業研究会を、校内研究の計画の中に入れる工夫をしながら、できるだけ多くの方が授業を開くようにしていこうと思います。

以上より2010年度は、前年度掲げた研究テーマを更に深化したものにしていこうという方向で計画を立案していきます。特に、『授業研究会』『現職研修会』『個人研究』の、研修3本柱を中心に校内研究・研修を推進していく2年目と位置付けます。昨年行われなかった学級活動や道徳の授業研究会も開催していきたいものです。

そこで本年も研究テーマを変えずに継続していきます。

自ら学び、生きる力を身につけようとする生徒の育成

～「かかわり」を大切に、個と個をつなぎあう学習を通して～

また、研究の3つの柱も、本校研究の重要な土台と位置付けて継続し、さらなる深化を図っていきます。

M中 校内研究 3本柱

全校での取り組み

『授業研究会』

校内研究テーマの探求

研究推進委員会
(学期1回)
研究の計画・立案

全体授業研究会

- ・一つの授業を全員で参観する。

グループ授業研究会

- ・学年、教科ごとにおける授業研究会

リクエスト授業研究会

- ・初任者と5年目経験者がリクエストする授業参観

研究協議会の活性化

- ・バズセッション
- ・ワークショップ型
- ・ビデオの導入

『現職研修会』

教師の資質の向上

研究主任、教頭
研修内容の計画・立案
外部講師の活用

(21年度の例)

- ・ 服務について
- ・ 危機管理について
- ・ 個人情報管理
- ・ 特別支援教育
- ・ 夏季研修
- ・ AED研修
- ・ 評価について

教師個人の取り組み

『個人研究会』

同僚性の育成

個人ごと、研究テーマの設定、研究の実践
(通念)

研究推進委員会

個人研究発表会の企画

個人テーマ(教育に限らず)を設定し、研究を通年で行う。「教え手」から「良き学び手」として研鑽を積んでいく。

発表会を通して、同僚性を高めていく学校全体の雰囲気醸成していく。

5

授業力、教育力の向上

1

つ目の柱:授業研究会による授業改善

(1)授業研究会の後の協議会(話し合い)の充実

本年度は、全員で1つの授業を参観して話し合う“全体授業研究会”と、学年ごと、教科ごとに授業研究会を開催する“グループ授業研究会”の2つを組み合わせで行います。また、初任者と5年目の経験者研修対象の方は、リクエスト授業参観を行います。それぞれ、その取り組みを、日常の多忙の中でいかに実践していくかは、工夫を怠りかねずは絵に描いた餅になってしまいます。そこで下記に、それぞれを実践するための工夫やポイントをまとめてみます。

【全体授業研究会】

①授業の話し合いにエネルギーを注ぐために

とにかく授業を公開して、教科の枠を超えて、授業の奥深さや授業に起きてくる出来事を参観者全員で考え、どのように個と個を結びつける授業ができるのかを考えるような授業研究会を柱にしていきたいものです。

そのためには、数多くの授業を公開して、それを観ることが大切です。年に1度、夜遅くまで指導案を書いて、たった一つの授業に何回も検討を重ねて本番に臨むような、お祭りみたいな授業研究ではなく、毎日の授業を開きあい、その中から、生徒個々をつなぎ合う授業をどうしたらできるのか全員で考え、そして授業の難しさを共感しあう地道な研究をしましょう。それこそが、わたし達教師の力を伸ばしていくと信じています。

②授業研究をするための手立て

ここで、確認しておきたいのは、わたし達は素晴らしい授業を目指すのではなく、授業の中で子どもと子どもがどのように学びに参加しているのか、その様子を参加者全員で確かめあうという研究会だということです。きっと、計画通りに行かない授業もあるでしょう。でも現実問題、計画通りにいく日常の授業なんてあるのでしょうか。生徒を中心に据えた授業とは、計画通りに行うことが大切なのではありません。授業の中で発生した予定外の出来事が授業を広げていくのです。授業の良し悪しが問題ではない、優れた授業を提案しようという意識から自由になりましょう。

抵抗感が強い原因に、指導案を作成するまでの膨大なエネルギーがあります。授業のプログラムを立てることは大変大切なことです。ただ、これまでのようにそれに多大なエネルギーを注ぐことを今年は止めて、それよりも授業を開き、その後の授業研究会にエネルギーを注ぐことを思い切ってしてみたいものです。授業を開くとき、単元と指導計画、そして授業者が授業をする上での願いや参観者に観る視点を簡単にA4版1枚に書いてもらうのみにします。

ただし、要請訪問では、指導案を書く練習も含めて、通常の指導案作成をしていただくこととなります。

③授業研究を参観する

研究授業は授業者の宣言です。こんな工夫をして、こんな手立てで、目標を達成したい、学習を進めたいという授業者の願いでもあります。

参観する際のエチケットを確認しましょう。

- ・授業を受けている生徒に手を貸したり、ヒントを与えない。
- ・できる限り前や横から生徒をみていきましょう。
- ・生徒のノートを覗き込むのは重要ですが、しつこく覗き込まずに、あくまでもさりげなく。
- ・付箋が配布された場合、付箋に書きながらでもよいですが、メモして、あとで付箋に書き写して研究会に臨んでもよいです。
- ・参観の際は、参観者それぞれの視点で授業を見つめてください。相談したり話し合ったりしながらの参観は避けましょう。

【グループ授業研究会】

グループ授業研究会は、各学年ごと、教科ごとの授業研究会です。

一般的な教科の分け方ではなく、その教科の本質の面を重視して分け、それを教科群と呼んで、グループ授業研究を行います。

A 教科群	
社会とのつながりから捉える	社会・技術・家庭
	○高橋Y、T屋、S木、高橋S、K澤
B 教科群	
他者の表現を読み取る	国語・音楽・美術
	○○田島・S沼・I十嵐・Y部・N田
C 教科群	
検証して確かめる	理科・数学
	○○又・E藤・H間・Y歙・Y山・M田・(I藤)
D 教科群	
知識・表現の共有が土台にある	英語・保健体育
	○Y口・K内・H口・高橋K・M上・(教頭)

グループ授業研究は、少人数による研究協議会となります。話し合いでは、ワークショップ型を推奨し、用紙に付箋を貼りながら、その授業で出現したエピソードなどを中心に話し合いを行うように心がけましょう。

導入	展開	終末

参観者には、付箋紙を活用して、ワークショップ型の話し合いを行います。ピンクには、研究テーマに関して感じたこと。ブルーには、その他気づいたこと何でも記入しておいてください。付箋紙1枚につき、ひとつの内容で記入してください。

話し合い終了後に、付箋を貼った紙を研究主任までご提出ください。もちろん、乱雑に書きこまれたもので結構です。

グループ研究の中でも、12月1月は、ミニグループ授業研究会と名づけ、各学年ごと、教科群ごとで計画して行っていただきます。ミニグループ授業研究会の参観者は自由とし、授業が空いていたときは、積極的に参観にでかけましょう。そして、授業を参観して気付いた感想は付箋などに記入し、授業者の机に置くようにしましょう。

【リクエスト授業研究会】

初任者、5年目研修の対象の方は、今年度間に1度、是非参観したい先生に依頼して、普段の授業を参観させてもらい、リクエスト授業研究会を実施します。参観した後、簡単な感想や、授業者と話し合った内容などを記入した用紙を、研究主任に提出ください。リクエストをうけた方は、どの単元の授業を開くかを考えて、リクエストした方に返答してください。

2 つ目の柱: 現職研修会

私たちを取り巻く環境は、今いっそう厳しくなる一方です。“授業を行えばいい”なんて考えている人は誰もいないでしょう。落ち着いた学校生活を作るために、教師は、様々な力を求められています。そのような力はときに私たちの身を守る力ともなるでしょう。しかし、このような様々な力を実際に触れる時間が無いという実感もあるでしょう。そこで、時々、会議を短縮し、浮いた時間を利用して、だいたい30分程度の研修会を計画していきたいと思います。講師は、研修に行った方にさせていただき、お互いにお話し合いしながら、これらの力を蓄えていきたいものです。

今必要な力のラインナップ(21年度実施例)

- ・ 人間関係づくりトレーニング法

- ・ PCによる校務軽減の術
- ・ 服務規程を知る
- ・ 評価についての考えかた
- ・ 危機管理につよい組織
- ・ ネットモラル
- ・ 心の健康のために
- ・ 新学習指導要領へのスムーズな移行

3 つ目の柱:個人研究

授業研究会の充実と平行して、個人研究をもう一つの柱にしましょう。わたし達は、研修が義務付けられているのは当然ですが、やらされられる研修ではなく、自分で課題を見つけその研修や研究を行うときの心の負担は雲泥の差です。研究テーマを決めて、それを1年間かけて行いましょう。同じ職場の仲間が、どんな点にこころを抱いているのか、同僚性を高める上でも楽しい企画だったと自負しております。テーマは教育とは関係ないもので結構です。すなわち、教員も一人の人間に立ち返って、様々なテーマを設定して、自分のペースで取り組んで見て欲しいのです。最終的に形式的なレポートは要求しません。ただ、自分の研究の様子を、発表して頂く機会を、設定しますので、自分なりに工夫した発表になると嬉しいです。研究するに当たって、様々な研修会やグループ研修、情報収集などを研究推進委員会ではバックアップしていくようにしたいものです。

昨年度行った個人研究

氏名	個人研究テーマ	設定の理由
教頭	私が選ぶ DVD、Best 10	“心を動かす体験を” 感涙、爆笑、怒…わずかな時間で体験を！
I 藤	1、2歳児から学ぶ育児観察記から	ふと気づかせられる、教育のあり方を捉えるために
H口	チェンソーアート	チェンソーアートの大会見学で心にビビッときた。
O国	願いを叶える NLP	やる気や可能性を引き出すコーチングを追求したい。
O又	理科の教材あつめとその活用	様々なメディアからの情報を集め、最近の科学について生徒に伝えることで理科に対する興味を高める。

H間	筋肉のつくりと健康	この一年で身体を鍛えつつ、筋肉について知りたい。
O場	血液型と性格の関わりについて	以前から血液型に興味があり、4種類での分類が本当に可能であるのかを知りたいと思っていたため。また、血液中の物質の関わりなど、分類するにあたって、科学的に証明されていない部分が多く、興味がある。
Y山	ラグビーについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラグビーを知って欲しい ・ ラグビーを広めたい
高橋 S	コーチングと脳科学	言葉によって、いかに子どもの能力を発揮させることができるかを科学したい
N開	知的障害児における有効な自立活動	将来、自立した生活を送ることができるように、よりよい支援について研究したい。
高橋 T	地域限定グッズの教材化	生徒が興味を持ち、関心を高められるような教材を発掘したいから。
K藤	太陽電池でミニ四駆を走らせよう。	昔遊んだミニ四駆を太陽電池でより速く走らせたいから。
T屋	心を動かされる名言・名句など	自分の心を動かされたものを生徒に伝えていきたいから
N郷	ソフトテニスについて	一昨年度運動があまりできなくなったので、少しずつ運動していこうという決意を込めて
N田	ものづくり	手を使った作品を制作し、勉強する
O田嶋	心を安定させるカラーセラピーのノウハウ	以前、複雑な図形を塗り絵させていた先生がいたが、仕上げたときの生徒の様子がとても穏やかだった。色を塗ることが精神的に浄化作用がある。また色にはパワーがあるのではないかと思っていた折、「カラーセラピー」という言葉をネットで知り、調べてみようと思った。
K澤	コミュニケーションスキルアップ法について	様々な手立て法が紹介されているが、どのようなやり方をすると効果的なのか検証したいから
S沼	子どもとの「遊び」を考える	日ごろなかなか関わる時間をもつことができていない現状を踏まえ、そのような中でもどのように子どもと関わるか「遊び」を通して見てくるものを考察していく

M岡	イタリアの中の世界遺産	とても興味があり、次はぜひイタリアに行きたいから
Y口	使える科白(マンガより)	私自身マンガの一言で動かされることが多く、実際に子どもに伝えているため、さらに深めたい。
Y部	和楽器の指導を通してわが国の伝統音楽に興味を持たせるには	表現の手段として和楽器を使用することにより、わが国の伝統音楽に興味を持たせたいから。
K林	EXCEL の達人を目指して	もっと、機能を使いこなして、仕事の効率を上げるために。
高橋 K	走の技術	中・長距離走を、より速いタイムで走る為
K内	国内旅行プラン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短い休日を利用して、効率的に、楽しい国内旅行をしたいと思ったため。 ・ 旅に行ける日数、予算などに応じて、自分なりのおすすめプランをつくってみたいと思ったため。 ・ たくさんのガイドブックを見て迷う人に、忙しくて自分で調べる時間のない人に提案して、観光スポットや名所をまとめたり、メジャーではないけれども面白そうな場所などを見つけて、プランにし、提案したいと思ったため。

最後に

校内研究の推進の力は“同僚性”であること。それら全体的なことを通して、ようやく、生徒の力を高めていけるということです。栄養学で言われる栄養の連鎖と同様に、何かひとつ栄養素をとったからといって、健康になるのではないのです。すべての栄養素を少しずつとることで人間の体は健康に保たれます。その連鎖は、教育においても同様なのではないでしょうか。授業者として、教育者として、人間として、私たちは互いを高め合うことで、力を高めていけます。

是非、本ガイドブックをう読んでいただき、今年一年新たに書きたしながら、研究を行っていきましょう。そして、日常の授業において、少しずつ教室内に生徒たちの声や笑い声がこだまする、そんな授業に挑戦していきましょう。

平成 22 年度校内研修年間研修計画

月	授業研究	授業者	現職研修 (21年度の例)	個人研究
4	○年間研修計画の話し合い (2日) ○授業研究会の割り当て			個人研究テーマの決定と研究計画の作成。
5	○小中連絡協議会 (日)	全員対象	○AED研修(31日)	随時、個人研究を推進
6	○第1回全体授業研究会(4日) 【授業者2年3年より1名ずつ】	() ()	○評価について (29日)	行ってみよう研修会などは、相談してください
7			○人間関係作りトレーニングの実習 (夏期研修30日)	
8				
9				
10	○第2回グループ授業研究会 (22日) ※【教科群より2名】 ○地区国語研	A () () B () () C () () D () ()	○PC研修(4日) ○危機管理(25日)	
11			○特別支援教育 (29日)	↓
12	●ミニグループ授業研究会 (教科群)	() () () ()		
1	●ミニグループ授業研究会 (学年) (道徳・学級活動)	() () ()	○サービスについて (31日)	○個人研究のまとめ(31日)
2	○第3回全体授業研究会(10日) 【授業者1年2年より1名ずつ】	() ()	○新学習指導要領への移行(28日)	発表会準備

3	/	/	/	○個人研究発表会（7日）
---	---	---	---	--------------

- ※ 4月16日（金）まで、学年主任の方、下記の教科群の○がついている方がまとめて報告してください。
- ※ 12月の教科群によるグループ授業権は、授業研究会をしていない方優先をお願いします。日取りや時間は、教科群で教務と相談して行ってください。
- ※ 3回の研究授業は、道徳・学級活動からお考えください。
- ※ 要請訪問は、6・10・2月のいずれかの授業研究会で開催します。
- ※ 初任者研修、経験者研修は別日程で行います。

提出用紙 1 (学年主任、教科群○者用)

授業研究会計画

4月16日(金)まで、学年主任の方、下記の教科群の○がついている方がまとめて報告してください。

14

	対象	授業者氏名
6月全体授業研究	2年	()
	3年	()
10月グループ授業研究	A教科群	()
		()
	B教科群	()
		()
12月ミニグループ授業研究 (教科群)	C教科群	()
		()
	D教科群	()
		()
1月ミニグループ授業研究 (学年) ※道徳・学級活動	1年	()
	2年	()
	3年	()
2月全体授業研究	1年	()
	2年	()

提出用紙2（全員）

個人研究計画

☆校内研究の柱の一つである、個人研究計画書の提出を4月24日までご提出ください。

研究対象は、教育関係を問わず、一人の人間としてのあらゆる研修を対象とします。もちろん、途中で変更も可ですが、ひとりの人間として、これまで興味を持って行ってきた活動や、これから取り組んでみたい活動。趣味やサークルで、日ごろ行っていることを、更に深く追求し、研究対象としてみていきましょう。それらは、1年間で研究が完結しないものでしょう。3月の発表は、研究の途中経過の発表になるでしょう。それでも、1年間自分の、このような活動を研究と捉え、それなりに、まとめてみることで、多くの同僚に、自分について知らない面をアピールできるものと思われまます。楽しく実になるものをテーマにしてみましよう。

15

研究者氏名	()
個人研究テーマ	()
テーマ設定の理由	()
研究の方針（箇条書きで構いません）	

※ 一応、提出の前に控えをとっておいてください。

※ 高橋晋の机の後ろにある黒板に、封筒を貼っておきますので、それに入れてください。

